

2021年度 創価大学学長ヴィジョン

2021年4月
学長 馬場 善久

2021年度学長ヴィジョン

2020年度は、新型コロナウイルスの感染症という未曾有の状況の中で、学生と教職員が協力することで、学習と研究を継続することができた。皆様の努力にあらためて感謝の意を表したい。本年度もウィズコロナという環境であるが、創立50周年という意義ある年を学生、教職員の健康と安全を最優先にして、教育・研究および諸活動を展開したい。

昨年度は教育・研究に多くの成果を残すことができた。教育の分野においては、オンラインでの授業と各種サービスの提供が通信教育課程のみならず通学課程においても一挙に進展した。研究分野では、JST-JICAの「地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）」で、「ナイルの源流エチオピア・タナ湖で過剰繁茂する水草バイオマスの管理手法と有効利用プロセスの確立」と題するプロジェクトが採択された。そして、本学糖鎖生命システム融合研究所が参画するヒューマンライコームプロジェクト日本グループ（代表者 東海国立大学機構名古屋大学・iGCORE 門松健治）は、「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想ロードマップの策定—ロードマップ2020—」に掲載された。関係者の皆様に心から御礼を申し上げたい。

コロナ禍においても学生が忍耐強く、知恵を発揮して、様々な分野で活躍をしてくれた。急遽リモートでの開催となったが、大学祭をはじめ諸活動においては世界中からのアクセスがあり、未来への可能性を示してくれた。各種ビジネスコンテスト、国際会議や大会、資格試験や進路、地域貢献等々の多くの分野で、学生たちは日頃の活動成果を発揮してくれた。中でも2021年1月2日、3日の東京箱根間往復大学駅伝競走において、往路優勝・総合2位という快挙を達成し、日本全国に感動を与えた。また、本年1月に公表された令和2年司法試験に16名が合格し、合格率は私大4位であった。本学創立50周年である2021年の素晴らしい幕開けを飾ってくれた。

昨年度は、2010年に公表した「創価大学グランドデザイン」の最終年度でもあった。それは、「建学の精神に基づき『創造的人間』を育成する大学」を目指し、「自分力の発見」をテーマに学生一人ひとりが有する可能性を開花させる取り組みであった。5つの戦略と4つの計画という9つの分野で具体的な目標を掲げて、その実施に努力した結果、多くの成果を挙げることができた。2014年には、「スーパーグローバル大学創成支援（SGU）事業」と「大学教育再生加速プログラム（AP）事業」の2つの大規模補助事業に採択をされた。SGU事業では、2018年2月に公表された中間評価では最高の「S」という評価、本年3月に公表された中間評価でも、「S」という高い評価を得ることができた。AP事業でも、「計画どおりの取り組みが行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できる」ということで、事後評価「A」という結果であった。また、「世界大学ランキング日本版」、「QS アジア大学ランキング」や「THE University Impact Rankings」などの世界大学ランキングにランクインすることができた。今後もSGU事業とAP事業での取り組みを両輪とし

て、多様性豊かなキャンパス環境を築き、世界市民教育に取り組んでいく。なお、「創価大学グランドデザイン」の取り組み結果については、ホームページでその詳細を公表している。

創価大学は本年4月2日に創立満50年の佳節を迎え、この50年間で開学の時には想像もできなかった発展を遂げることができた。この間、本学の発展に貢献をしていただいたお一人おひとりに心からの感謝を申し上げたい。

本年は、今後10か年の中長期計画である『Soka University Grand Design 2021-2030』のスタートの年となる。そのテーマは「価値創造を实践する『世界市民』を育む大学」で、教育、研究、SDGsとダイバーシティという4つの分野で目標を掲げている。今年の学長ヴィジョンの各論は、その4つの分野で構成される。それ以外に次のような学生支援に取り組んでいく。

昨年度より、国の「高等教育の修学支援新制度」に加え、本学独自の奨学金制度を整備した。本年は、コロナ禍で経済支援を必要とする学生にきめ細かな支援を進める。また障害のある学生への支援を充実させることを目的に、本年3月に新たに「障害学生支援室」を設置した。キャリアサポートについてはDXを推進し、サポート情報の発信の強化、卒業生情報のデジタル化、キャリアセンターホームページの充実、学生の得られる企業情報の充実に取り組む。

また本年は昨年4月に発表した「創立50周年記念事業」の一環として、以下の行事の準備を進めている。

- (1) 4月2日創立記念日の入学式に併せて創立50周年記念行事を開催
- (2) 10月の創大祭に創立50周年記念式典を開催
- (3) 10月には世界の各国から研究者が集まり、創立者の思想・哲学・教育などについて研究発表する「第11回池田大作思想国際学術シンポジウム」を開催
- (4) 11月に創立50周年記念行事となるシンポジウムを開催
- (5) 6月に連続イベント「価値創造×SDGs」と「世界市民教育」をテーマ開催

さらに「創価大学50年の歴史」の出版、本部棟での50周年記念展示（10月）を予定している。

大変に喜ばしいことに創立者池田大作先生より、この度刊行された『創価大学 50年の歴史』に寄稿文を賜った。その中で、創立者は50年で築き上げた、継承すべき本学の宝として次の3点を挙げられている。1. 「『人間教育』の尽きることなき慈愛の水脈」、2. 「いかなる苦難も勝ち越えゆく『創造的生命』の太陽」、3. 「人類を結ぶ『地球民族主義』のネットワーク」。これら3つの宝を継承し、「学生のための大学」として、本学発展の新たな歴史を一人ひとりが主体者となって綴ってまいりたい。

60周年へのスタートにあたって、「学生のための大学」との本学の基本方針を確認したい。創立

者は設立構想段階から一貫して「大学は学生のためにあるべきだ」と訴えられ、50年間数限りない激励を学生に贈っていただいた。学生たちは「若き創立者」として、大学建設に汗を流すとともに人生の基盤を形成した。今卒業生は日本、世界の各地で、さまざまな分野で価値創造の人生を歩んでいる。教職員の私たちが、この基本方針のもと一人ひとりの学生の成長のために、各々の分野で教育力・研究力・業務力のさらなる向上に努めてまいりたい。

本年度もコロナ禍での教育・研究活動となるが、感染症対策を万全に実施した上で、一人ひとりが最大限の注意をすることで、その継続を図ってまいりたい。感染症の状況に応じて、対面とオンラインによる活動を適切に組み合わせる必要があるかもしれない。「価値創造を实践する『世界市民』を育む大学」を目指して、創立60周年へスタートしていくためにも、教職員・学生の皆様のこれまで以上のご協力とご理解を念願したい。

1. 教育

(1) 創造的世界市民を育成する新しいカリキュラムの準備

明年度から新しいカリキュラムとなる共通科目と看護学部は入念な準備を行う。他の学部についても2023年度からの新しいカリキュラムの検討を始めている。とくに共通科目では、世界市民教育科目の充実や価値創造教育を学ぶ科目の充実を図っていく。本学の建学の精神や教育目標、ディプロマ・ポリシーを踏まえた適切なカリキュラム編成となるよう検討する。

(2) SDGs副専攻の設置

今年度はSDGs副専攻化を準備するワーキング・グループを立ちあげる。そこでは共通科目や専門科目から該当科目をピックアップし、学生がSDGsとの結びつきが強い科目を知り、計画的に履修できるようなカリキュラムマップづくりをしていく。

(3) データサイエンス教育の全学必修化

Society5.0に対応するため、明年度より共通科目に「数理・データサイエンス・自然科目群」を設置し、「データサイエンス入門」の全学必修化を開始する。本学は、2019年度に「データサイエンス副専攻」を開設し、昨年には「数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム」に加盟し、連携校になった。本年は、「データサイエンス入門」を開設し、全学必修化に向けての準備を行うとともに、日本を代表するIT企業との連携授業も開始する。

(4) 新しい授業形態への取り組み

対面授業とオンライン授業を同時に行うハイフレックス型授業や、対面とオンラインを組み合わせるブレンド型授業など新しい授業形態が模索されている。本学でも各自がPC等のデバイスを持つBYOD化に向け、教育効果が高い授業形態で実施していけるよう教職員向け研修を充実させていく。

(5) 学生の文章力向上と適切なレポート作成に向けた取り組み

2014年度から全学必修化している「学術文章作法」では文章力向上への取り組みを継続的に実施

してきたが、昨年は剽窃チェックソフトを活用し、適切なレポート作成について指導した。本年は剽窃チェックソフトを全学的に導入し、アカデミック・インテグリティ（学問における誠実性）の向上を図る。

(6) ポートフォリオの活用

2019年度で終了したAP事業の中で取り組まれてきた同僚会議で用いられている授業ポートフォリオを発展させ、より一般的なティーチング・ポートフォリオの普及を本格的に実施していく。また、BYOD化の展開を追い風に、学生による学習ポートフォリオの活用についても進めていく。これにより、教える側も学ぶ側も、自らの取り組みを振り返り、改善・向上を目指すことができる。

(7) 教育改善サイクルの推進

本年4月に申請した第3期認証評価を準備する中で、ディプロマ・ポリシー等の3つのポリシーを含めた本学の教育について全面的に点検した。また、大学全体と学部・研究科ごとに外部評価を実施し、幅広い視点から評価を受けた。本年は、教育成果の可視化への取り組みを強化しながら、認証評価準備の過程で明らかになった課題について具体的な改善に着手する。

2. 研究

(1) 重点研究の推進

研究成果を数多くあげている「プランクトン工学研究所」および「糖鎖生命システム融合研究所」について、国際学術論文の増加と大型外部資金獲得の重要拠点と位置づけ、研究環境の整備を重点的に行う。また、これらの拠点については、国の競争的資金や拠点整備事業等に積極的に申請・参画できるようにサポートする。学際融合領域研究を促進する仕組み、また、SDGsに貢献する研究課題を重点的に支援する「創価大学重点研究推進プロジェクト（仮称）」の制度設計を行う。

(2) 国際競争力の強化

国際共同研究の促進に向けて、「Soka University Grand Design 2021-2030」で掲げた、研究者ネットワークの組織化を目指した「Soka University Fellow（仮称）制度の創設」や、海外で実績のある研究者を招聘する「客員教員受け入れによる国際共同研究支援」について、具体的な制度設計に着手する。国際学術論文の増加に向けては、「英語論文投稿支援制度」の制度改善と共に、「論文投稿支援セミナー」等の充実を図る。海外機関と共同で進めている大型研究プロジェクト（SATREPSなど）を加速させ、研究成果の幅広い普及に繋げるとともに、これら大型プロジェクトに応募しやすい環境整備を行う。

(3) 外部資金獲得の強化

科研費をはじめとした競争的資金の応募へのマインドを高める施策を検討する。また、各種セミナーの内容充実や、申請書類のチェックを強化するなど機能強化を重点的に行う。また、研究の大型化・国際化を促すため、大型の事業・種目に応募した研究者に対して助成する制度等の創設を目指す。

その他、国が示した、競争的研究費の直接経費から研究代表者の人件費を支出すること、また、競争的研究費の直接経費から研究以外の業務の代行に係る経費を支出すること（バイアウト制度）について、制度の導入に向けて環境を整備する。

(4) 研究基盤の強化

適正な研究費配分を目指し、算定基準および傾斜配分制度等の点検・見直しを行う。研究時間の確保に向けては、さらなる研究推進制度の充実を図るとともに、導入を検討しているURA（リサーチ・アドミニストレーター）について、本学の研究環境に応じた採用準備を行う。

感染症など新たな危機にも柔軟に対応できる研究事務体制の構築を目指し、効率化や簡略化を積極的に推進する。また、オンライン会議の普及や、オンデマンドセミナーなどのコンテンツを充実させる。さらに、研究をサポートする事務職員の能力向上に向けた研修等を計画する。

その他、次代を担う優秀な研究者の輩出に向けて、若手研究者や、大学院博士後期課程の学生への支援制度の整備について協議を進める。

(5) 適正な研究活動の推進

研究者の研究倫理意識の向上を図り、研究費の不正使用および研究活動における不正行為を防止すべく、コンプライアンス教育教材の更新を行い、同時に全専任教員に対し研究倫理教育教材「eAPRIN」の定期的な受講を促す。また、研究者倫理に関する規範意識の徹底を目的として、博士前期課程並びに修士課程の全大学院生に対して、e-learning教材を用いた研究倫理教育の必修科目を導入できるよう、体制整備を行う。

(6) 創業者および創価教育に関する研究を推進

池田大作記念創価教育研究所への改組を契機として、創業者および創価教育を、より広く学術的に論ずる国際的拠点構築する。本年秋には、「第11回池田大作思想国際学術シンポジウム」を、明年秋には、「第1回 世界市民教育シンポジウム」を創価大学で開催する。さらに、創業者の研究、および創価教育の実践の記録を体系的に収集・整理・保存し、研究資料としての活用を図っていく。

3. SDGs

(1) 全学SDGsプロジェクトの推進

SDGs貢献度の高いプロジェクトやプロジェクト化したい事業に対して、「創価大学SDGsグッドプラクティス」として認定し、「スタートアップ支援」、ビジネスモデルとして将来性のある事業に対しては、「サステイナブル事業支援」として助成を行う。また教職学のSDGsに対する認知度や貢献度を調査するとともに、大学マネジメントにおけるSDGsのアイデアを年1回募集し、採択したアイデアは教職学で協働して実施していく。

(2) “SDGs目標達成に貢献する人材”の育成と、“SDGs学生・専門家・実務家ネットワーク”の構築と拡大

将来国際機関などを目指す高校生、学生、社会人や、学外の専門家、実務家など、SDGsの目標

達成に貢献していく人材を幅広く養成し、かつそのネットワークを構築していく。本年度はネットワークングを目的に対話集会を実施していく。

(3) 国連諸機関との連携強化

UNDP国連開発機構、UNHCR国連難民高等弁務官事務所、FAO国連食糧農業機関などの国連機関との連携を強化しインターンシップ実施も含めた協力事業を推進する。また国連アカデミックイニシアチブ参加大学、さらには国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）のプラットフォーム参加大学として、SDGs推進に先導的役割を果たす。またユネスコスクール支援大学間ネットワークASPUnivNetの活動を通じて、八王子を含む多摩地域を中心に、ESD教育分野でも貢献していく。

(4) キャンパスのSDGs化・エネルギー計画の検討開始

「創価大学気候非常事態宣言」を発出するとともに、2050年再生可能エネルギー100%達成を目指したエネルギー計画の検討を始める。また4Rやエシカル消費などカーボンニュートラルに向けた取り組みを推進する。さらにサステナブルキャンパス検討部会の設置準備を進めると同時に「創価大学サステナブルマネジメント宣言」の発出を目指す。

4. ダイバーシティ

(1) グローバル化の推進

各大陸別・言語別に戦略的グローバルネットワークを形成する拠点の一つとして、アフリカのケニア・ナイロビ大学に本年3月に創価大学ナイロビ事務所を開設できた。開所式はオンラインでの開催となったが、アジア（中国・韓国・タイ・フィリピン）に引き続き5か所目となる。

本学が最も早くから交流を実施してきたモスクワ大学のサドーヴニチ総長から、本学創立50周年を祝する丁寧な長文のメッセージを頂戴した。海外諸大学との交流については、近年その内容が多様化しており、各学部等においても様々な交流を実施してきた。創立50周年記念事業の機会に、交流の歴史を今一度振り返り、今後の交流を展望しつつ、交流校の拡大や交流協定の延長等に臨んでまいりたい。

(2) スーパーグローバル大学創成支援事業の継続・発展

昨年度に中間評価を受け「S」の評価を獲得した。前回の「S」評価に続き、本学の着実な取り組みが高く評価された。

ただし、コロナ禍にあって、昨年からの外国人学生の受入れや本学学生の海外派遣がままならない状況が続いている。受入れや派遣については、諸情勢が好転し、可能になったところから再開していきたい。他方で、オンラインによる国境を越えた教育交流プログラムへのニーズが高まっており、海外在住の学生に授業や各種の機会を提供するだけでなく、海外諸大学との学生交流や日本語教育等の提供を積極的に計画、実施していきたい。

(3) 男女共同参画の取り組み

女性が活躍する環境を提供することがキャンパスの多様化に必須の条件である。女性教員比率33%、女性職員比率40%は、SGU事業において掲げた2023年度の最終目標であるが、本年度においてほぼ目標値に近づいている。ただし、女性教員比率は各学部においてばらつきがあり、また職員においても女性の幹部職員登用などの課題がある。本年度は、各学部で女性教員の採用を強く促すとともに、「創価大学男女共同参画推進センター」を中心に、女性教員・研究者・職員の支援・育成を継続する。

